

フォンアプリ「一斉同報システム」は、既存のネットワーク設備を利用し、離れた拠点同士を結ぶ放送設備として使用することができる、新しい同報ソリューションです。

例1 報告会議



全国の支店長を集めて、月例の売り上げ報告会議を開きたい

例2 社長メッセージ

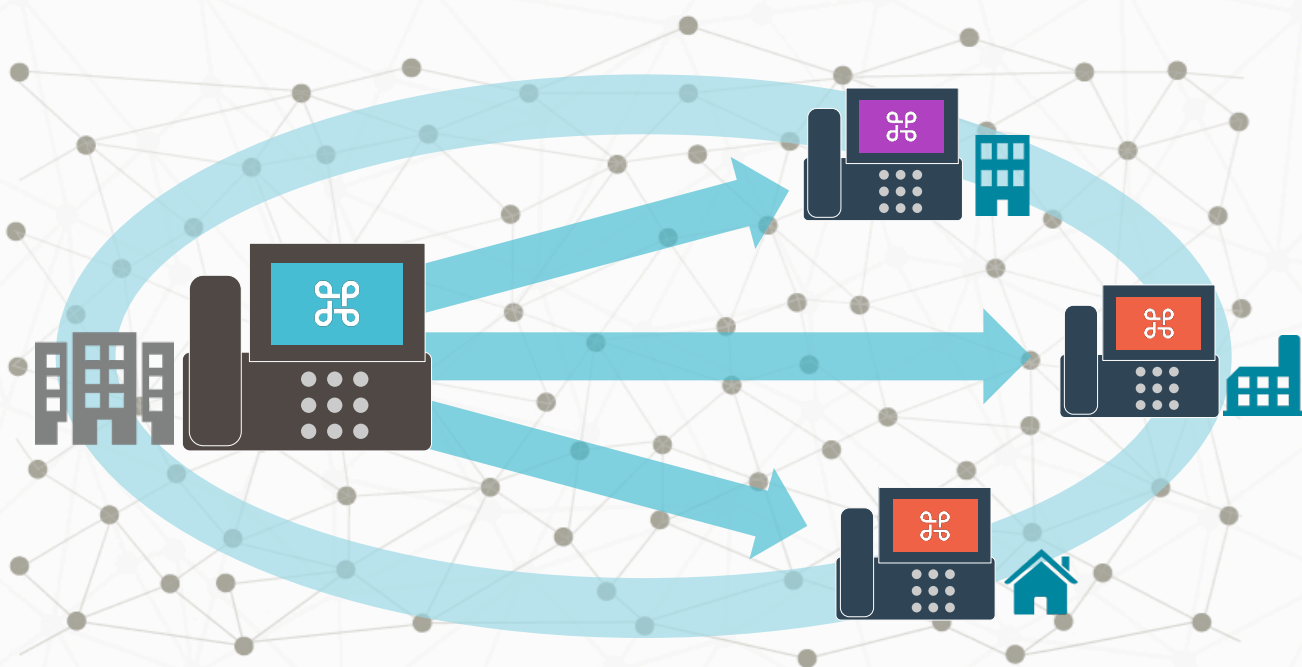


朝礼を利用して、全国の拠点で同時に社長から褒章授与者を発表したい

例3 緊急放送



災害発生時に、各階、各拠点に緊急で放送を流したい



センター拠点

設置可能台数	5
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 「同報サービス開催中」画面の表示 会議を開始できる 会議を終了することが可能 自分だけ退席できる

リモート拠点

設置可能台数	50(デフォルト)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 会議に参加する

機能説明

同報機能	グループ※1分けした複数のIP電話機に同時に接続、通話することが可能。 ※Cisco Unified Communications Managerに標準搭載されているMeet Meカンファレンスを用いて、複数の電話機へ一斉接続(通話)する機能。ただし、一度に開催できる同報は1つのみ。
再接続機能	開催中の同報に参加している際、受話器を置いても通話が切断されずに再接続する機能。
通話中呼び出し履歴機能	開催中の同報(A)に非参加の拠点(※2)の低い同報(B)を開催した場合、その会議は失敗し(ビジー音が流れる)、同報(A)に参加しているセンター拠点全てのディスプレイ上に、同報(B)の開催が失敗した日時が表示される機能。 ※着信履歴通知は、再度表示させることも可能。
強制終了機能	2つ以上のセンター拠点が参加する同報を、いちセンター拠点が強制的に終了することができる機能。

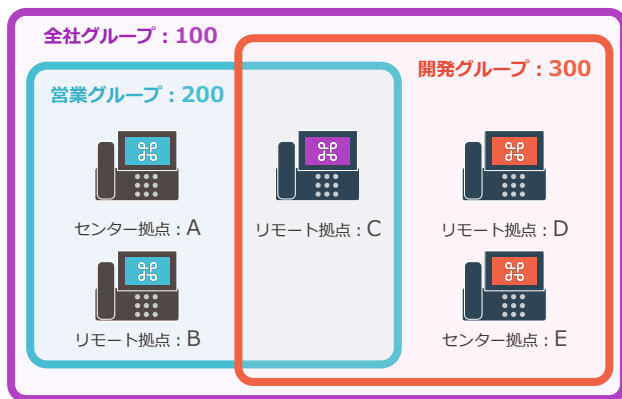
※1 グループについて

同報グループを作成することができます。

例 (下図参照) :

同報番号	優先度	同報名	対象電話機
100	1(高)	全社グループ	A, B, C, D, E
200	2(中)	営業グループ	A, B, C
300	3(低)	開発グループ	C, D, E

グループ化のイメージ図



※各グループに1つ以上のセンター拠点を含める必要があります。

※2 優先順位について

同報に1から3までの優先順位を設定することができます。

優先順位：1が最も高く3が最も低くなります。

緊急性が高い同報を優先するため、1つの同報のみを実行します。

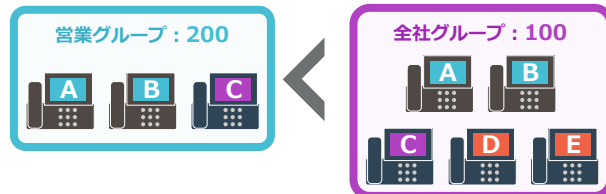
そのため、優先順位の高い同報が実行されると、優先順位の低い同報は強制終了されます。

例 (左図および下図参照) :

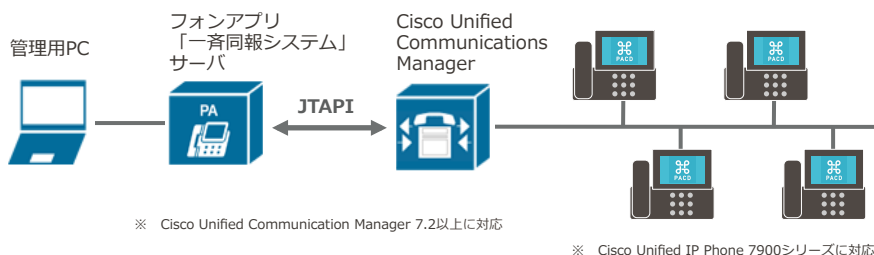
- 開発グループ300の同報実施中に営業グループ200の同報を開催
→開発グループ300の同報が終了
→営業グループ200の同報が開始 (優先順位がより高い同報のため)



- 営業グループ200の同報実施中に全社グループ100の同報を開催
→営業グループ200の同報が終了
→全社グループ100の同報が開始 (優先順位がより高い同報のため)



構成図



※ Cisco Unified Communication Manager 7.2以上に対応

※ Cisco Unified IP Phone 7900シリーズに対応

フォンアプリ「一斉同報システム」サーバ仕様

ハードウェア

CPU	: 2GHz以上、8コア以上
メモリ	: 16GB以上
HDD	: 500GB以上
OS	: CentOS 6.X

©PhoneAppli Inc. All Rights Reserved.

本資料の全部または一部を弊社の文書による事前の承諾なしに転載または複製することを固くお断り致します。この資料の記載内容は2014年12月現在のものです。この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。本資料に関する詳細についてのお問い合わせ、その他お気付きの点等がございましたら弊社営業窓口までご照会下さい。